

「ベンチャーに行け」
。大企業か、ベンチャーかと問われたらそう答えるようにしている。もちろん社長と相性が合うか、夢に共感できるか、そのビジネスがやりたいのかどうかなど、留意すべき点はいくつかある。それらを踏まえただで総合的に判断すべきなのは言うまでもない。

それでも私の答えは変わらない。理由は実にシンプルだ。誰かがつくった枠組みの中で、誰かに決められた仕事をし、誰かに評価される道を選ぶのか。それと

V B 経営 虎の巻

めざせ起業家

も、自分で枠組みそのものをつくり、自分で考えた仕事をし、その評価を自ら受ける道を選ぶのか。私は後者の方が圧倒的にいいと思う。毎日やるのが満載で、浮き沈みもあるが、その分だけ人生が充実する。楽しんで

ビジネスモデル作る側に

い。だから「ベンチャーに行け」と言っているのだ。

景気が上向きそうな気がする。それを利用し、お金を



インディゴブルー社長 柴田 励司氏

1985年上智大文卒。マニファクチャリング・ヒューマン・リソース・コンサルティング(現マニファクチャリング)社長などを経て、10年6月から現職。

私は転職、転身という道

今の政府の動きは、環境を整備の段階にとどまってい

コンサルティングだ。これはこれだ。若い世代に限らず、大組織の中で力を持て余している人は、ぜひ私と同じくベンチャーに挑戦してもらいたい。世間では社会起業家を目指す人が増えている。その間に世の中のためになることをしたい。ベンチャーに行け」と。